

1 単元名 創作文 読みたいくなるしくみを工夫する (現代の国語2 三省堂出版 p176~179)

2 指導観

- 現代、ChatGPTやELYZA PencilなどのAIによる文章生成ツールの台頭によって、物語や詩歌、論理的な文章などを執筆できるのは人間だけではなくなくなった。これらのツールは、キーワードや条件などを指定することで、誰でも簡単かつ気軽に文章を執筆できるようになっている。ゆえに、これらを用いて作品制作や文章校正を行っている生徒も多数見られ、今後の文章執筆の主流となる可能性も大いに考えられる。しかし、これらのツールで執筆された文章は、表現の工夫や特徴をもたない平易な文章であることが多く、伝える目的や目標、対象について考慮されずに執筆されており、読み手の感情を揺さぶるような文章になりえないのが現状である。
- 本教材は、学習指導要領第二学年の言語活動例「ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや創造したことを書く活動」に対応した教材である。読み手の心を引きつけることをめざして、描写や展開などの表現の工夫について学習する。創作を楽しみながら、自分が磨いた言葉が相手にどのように響くか、という検証の場として、互いに読み合い、語り合う機会を得られるという点で大変意義深い。また、読み手に「読みたい」と思わせるためには、テーマに沿った内容であることは勿論、伝える対象や目的、その作品で何を伝えたいかを明確にして執筆する必要がある。読み手や目的、伝えたいことを意識して言葉や表現を選び抜き、よりの確かつ適切な言葉や表現を見つけられるよう言語感覚を磨いていくことは有用な学習になるはずであると考え。
- 本学級の生徒は、小学校では、創作による物語における登場人物の役割や展開・構成の工夫の効果や相手や目的に合わせて文や文章を整えることについて学習している。さらに、中学校第1学年では、感じたことや考えたことが読み手に伝わるように言葉や表現を選択しながら詩や随筆を創作することについて学習してきている。本単元の学習前に行った実態調査によると、「文章を書くとき、『読み手』や『文章を書く目的』を意識しながら言葉や表現を考えている」と答えた生徒は○%であった。また、「文章を書き終えたあと、『読み手』や『文章を書く目的』に対して言葉や表現の選択が最適であったかふりかえっている」と答えた生徒は○%であった。
- この結果から、対象や目的、内容の関連を意識しながら言葉や表現を工夫したり選択したりしている生徒は少ない。また、文章を書くなかで、自分が選んだ言葉や表現が的確かつ適切であったかをふりかえり、見直しを行う生徒も少ないことがわかる。
- そこで本単元の指導にあたっては、創作文を交流し、批評し合う活動を通して、自らの言葉・表現の選択の良さや改善点を見出すことをねらいとする。そのためにまず、指定された文学作品から読みたいくなるしくみを見つけ、その効果を考えさせる。ここでは、表現の特徴や言葉の選択に工夫が見られる作品を取りあげ、言葉や表現に注目できるようにする。次に、創作文を実際に執筆させる。ここでは、生徒たちに創作文を書くための切実感をもたせるために、創作文のテーマを生徒自身に決定させる。また、創作文を執筆するにあたって、情報を分類・整理させる必要があるため、ロイロノートを用い、個々に適した思考ツールを選ばせる。そして、創作文を執筆するうえでの、自分自身の目標を決定させる。この目標を達成するために的確な言葉の表現や工夫をさせるため、「何のために、誰に向けて、どんな様子を描くのか」と発問する。次に、創作文を班員で読み合い、お互いの創作文の良い点や改善点について意見を交流する。ここでは、どういう点でその表現や工夫が効果的であったか基準をもたせるために、作品の交流前にお互いの目標を共有し、確認させる。また、形式面での良い点や改善点についての交流にさせないために、誤字や脱字などの形式的な部分については触れないことに言及する。さらに、目標に合わせた言葉や表現の選択について言及している生徒や班の発言を全体に共有し、言葉や表現の工夫や選択について考えを深めさせる。そして、お互いで共有した良い点や改善点、班員との交流の中で得た気付きをもとに自己の創作文を振り返らせ、自分の文章の良い点や改善点をまとめさせる。この際、抽象的なまとめにさせないために、良い点や改善点は、創作文の中の具体的な描写を指摘させながらまとめさせる。最後に、単元のまとめとして、前時にまとめた自分の創作文の良い点、改善点をもとに文章の推敲を行わせる。類語辞典やiPadを利用させ、類義語を確認させることで、目標達成に向けた的確かつ適切な言葉や表現を選択させる。

2 目 標

- 抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知識・技能)
- 伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思考・判断・表現)
- 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思考・判断・表現)
- 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などをふまえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができる。(思考・判断・表現)
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)

3 計 画 (全7時間)

- 第一次 読みたくなるしくみとその効果について考える。————— 1時間
- 第二次 創作文を執筆する。————— 3時間
- (1) 創作文のテーマを考え、情報を整理する。————— 1時間
- (2) 創作文を執筆するうえでの目標を決定し、制作する。————— 2時間
- 第三次 創作文を班で読み合い、効果的であった工夫点や改善点を確認する。————— 2時間
- (1) 互いの創作文を読み合い、吟味シートに良い点や改善点をメモする。————— 1時間
- (2) 吟味シートをもとに班員と意見交流する。————— 1時間 (本時)
- 第四次 まとめた良い点と改善点をもとに、創作文を推敲する。————— 1時間

4 本 時

(1) 本時の指導観

前時までには生徒は、読みたくなるしくみについて理解している。自分たちで設定したテーマと目標を意識して、言葉や表現に工夫を凝らしながら創作文を書いている。また、吟味の視点をもとにお互いの創作文を読み合い、良い点や改善点をメモすることができている。そこで本時では、お互いの創作文の良い点や改善点を具体的に示しながら批評し合う活動を通して、自らの言葉・表現の選択の良さや改善点を見出すことができるようになることをねらいとする。まず、本時の交流活動の意味を把握させるために、前時に確認した吟味シートや班員の作品に直接書き込んだメモを確認させる。次に、確認した吟味シートやメモの内容をもとに班内で意見交流を行わせる。その際、言葉や表現の工夫の効果について話し合わせるために、交流の視点を提示する。特に目標については再度確認させ、その目標の達成に向けて言葉・表現の選択がなされているかを意識づけさせる。また、形式面での良い点や改善点についての交流にさせないために、誤字や脱字などの形式的な部分については触れないことに言及する。次に、吟味思考を働かせるために、目標に合わせた言葉や表現の選択について言及している生徒や班の発言を全体に共有する。最後に、お互いで共有した良い点や改善点、班員との交流の中で得た気づきをもとに自己の創作文を振り返らせ、自分の文章の良い点や改善点をまとめさせることで、「自分の目標に合った言葉・表現を選択できているか」「目標を達成するために、さらに的確かつ適切な表現はないか」を常に考え、言葉を自覚して使用できるようにさせたい。

(2) 主 眼

創作文を交流し、批評し合う活動を通して、自らの言葉・表現の選択の良さや改善点を見出すことができる。

(3) 過程

学習活動	○指導上の留意点 ★評価規準(方法)
1 前回の学習を想起し、めあてを確認する。	○ 本時の交流活動の意味を捉えさせるために、前時に作成した吟味シートを確認させる。
<p>めあて</p> <p>読みたくなる作品を書くために、自分の言葉・表現の選択の良さや改善点を考えよう。</p>	
<p>2 班内で意見交流を行う。</p> <p>吟味の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目標をもとに言葉や表現を選んでいるか。 ・ さらに良い表現はないか。 ・ どのようにすれば目標達成に近づくか。 <p>3 吟味シートをもとに、自己の作品をふりかえり、良い点や改善点をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉や表現の工夫の効果を話し合わせるために、作品交流前に捉えたお互いの目標を確認させ、それぞれの作品の意図を再度把握させる。 ○ 効果的な言葉や表現であるかを検討させるために、意見交流の視点を再度提示する。 ○ 言葉や表現の工夫について考えさせるために、誤字や脱字については改善点に含めないことを確認する。 ○ 吟味思考を働かせるために、目標に合わせた言葉や表現の工夫について意見をしている生徒を取りあげ、全体に共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 抽象的なまとめにさせないために、良い点や改善点は、創作文の中の具体的な描写を指摘させながらまとめさせる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <p>★ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などをふまえ、自分の文章のよい点や改善点を見出すことができる。(記述の確認)</p>
<p>まとめ例</p> <p>良い点は、「深く頷いた」という表現で、「僕」の決意を強く感じさせることができたところだ。しかし、母の行動を「あきらめたような声だった」だけで表しており、臨場感が感じられないというアドバイスを受けたため、行動描写が足りていないのではないかと思った。</p>	
4 ふりかえりを行う。	○ 本時のふりかえりをふりかえりシートに記入させる。
<p>ふりかえり例</p> <p>この授業を通して、ただ単に思いついた表現を選択するのではなく、その場面や状況に応じた表現を使うことで、読み手に臨場感や人物の心情などをよりわかりやすく伝えることができるのではないかと思った。言葉や表現には一つ一つに得意な場面と不得意な場面のようなものがあるのではないかと感じた。そのようなことに注意しながら、今後の授業や日頃のやりとりに生かしていくことが大切だと感じた。</p>	